

めがねはぼくの親友

天王小・5 小松原 大和

めがねはもう

ぼくの顔の一部になった

朝起きてまずかけるもの

夜ねる前にそっと外して大事にしまう

友達と遊んで

ちよつとずれても

ささつと直す

あせをかいて鼻のところがすべっても

気にしない

雨の日は

水てきがついてちよつと見えにくい

ラーメンを食べると

湯気のせいでちよつと見えにくい

それでも何だか

めがねをかけているぼくだけの

特別な感じがする

このめがねをかけて

たくさん本を読んだ

物語の主人公といっしょにぼう険した

このめがねをかけて絵をかいた
小さな色のちがいで

見つけられるようになった

このめがねをかけてドッジボールをした

ボールの動きがよく見えて

上手くよけられた

めがねはぼくの毎日を

もつと楽しく

もつと豊かにしてくれた

めがねをかけていると

いろんなことが分かる

空にうかんでいる飛行機雲が

まっすぐのびていること

遠くに見える電車が

ぼくの大好きな

名鉄パノラマスーパーだということ

家族や友達の笑顔も

ちゃんとはつきり見える

ぼくのめがねは

ぼくの周りの大切なものを

はつきり見せてくれる

だからぼくは

このめがねが大好きだ
めがねはぼくの

かけがえのない大切な親友だ